

第1回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくり」

日時 令和4年10月9日(日)13時00分～15時00分

会場 天川村山村開発センター

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>本日のテーマはまちづくりです。県や市町村が考えているまちづくりのアイデアを知っていただいて、共有化できればと思っております。</p> <p>最初は、リニア中央新幹線、大規模広域防災拠点、関西国際空港接続線というリニア関連事業についてです。</p> <p>15年後の2037年に、リニア中央新幹線「奈良市附近駅」の設置が予定されています。最近の動きでは、来年から名古屋・大阪間の環境アセスメントを始めるという方針を国が出しました。また、岸田総理から「環境アセスメントは、知事がリーダーシップを発揮してほしい」と激励を賜り、今までにない大きな変化であると思っております。</p> <p>大規模広域防災拠点は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と段階的に整備を進め、Ⅲ期ではリニアの建設に伴う発生土を谷部の盛土材として活用しようという発想で、鉄道による輸送を検討しています。</p> <p>さらに、関西国際空港接続線の整備では、先ほどの土砂運搬の鉄道を利用します。和歌山線を通して、紀の川市駅付近からJR関西空港線に合流し、1時間ぐらいで関西国際空港に接続させ、関西国際空港からの誘客につなげます。</p> <p>このような大インフラに結びつく道路も大事です。南部の道路は奈良県の課題でしたが、京奈和自動車道とそれに結びつくアンカールートの両方の整備が進んでいます。</p> <p>また、南部・東部地域のまちづくりでは、今年の3月に県と市町村が協働して振興を図る条例を制定し、施策を進めています。若者の流出が激しい地域なので、それを食い止めることが県政の最重要課題です。そのためには、拠点の形成と結節、人材の育成・確保が大事になります。</p> <p>その他、デジタル化や医療・福祉など様々な取組を進めており、県と市町村が協力してやればできる全国でも珍しいモデルがこの地域でも出てきておりますので、誇らしく思っています。</p>

資料説明	太田五條市長
	<p>西吉野農業高校は、昭和25年、地域の農業後継者育成のため、県立五條高校の分校として創立されました。しかし、その後、生徒数が減少する中で、学校を新しく再生するため、名称を変更して五條市が継承しました。</p> <p>現在、五條市では「西吉野農業高校魅力化推進事業」に取り組んでおります。全国から農業に興味を持つ幅広い人材を募集し、未来の担い手を育成することにより、移住・定住の促進を図ります。</p> <p>今回は、本事業の五つの取組を紹介します。</p> <p>一つ目は、生徒の全国募集です。東京で開催される合同説明会でのブース出展などのPR活動を行ってきました。</p> <p>二つ目は、生徒の寄宿舎の整備です。自宅通学ができない生徒のために寮の整備を行いました。</p>

三つ目は、実学重視のカリキュラムの策定です。校内実習に加えて地域との連携を取り入れております。

四つ目は、地域全体でサポートする仕組みの構築です。地域と学校の連携づくりを目指し、「西吉野農業高校を支援する会」を設立しました。

五つ目は、卒業生等支援の整備です。卒業後もこの地で農業を続けて定住できるよう、就農者住宅家賃補助金、支度金、応援補助金という全国初となる3つの支援策を設けています。

この学校で学んだ生徒が、五條市で農業を続けることが、移住・定住のまちづくりにつながると思っています。

資料説明	辻村黒滝村長
<p>林業から広がる地域ネットワークということで、主産業の林業を中心としたまち・人づくりに取り組んでいます。</p> <p>そんな中、若者世代の移住率が、少しではありますが増加しています。これは地域おこし協力隊の林業従事者としての雇用が要因になっています。この制度を活用して働いている方が、先人から受け継がれてきた技術を後世に受け継ぐために、一つ一つ丁寧に先輩方から教わっているところです。</p> <p>また、移住者を受け入れるには、仕事と住まいをセットで受け入れる体制が必要です。住宅を新たに建てるだけでなく、利用可能な住宅の改修も行っています。それにより集落に明かりが戻り、地域のコミュニティ形成にも役立っています。</p> <p>一方で、森林や林業に接する機会が少なくなっています。森林内での学習体験や研修等を通じて、森林の役割や森林と人との関わりについての理解と関心を深めていただくために、学校や企業向けの森林環境教育事業を実施しています。</p> <p>村では森と人が育む魅力ある暮らしづくりをコンセプトにまちづくり構想を進めています。最大の資源である豊かな森、川を生かした取組を取り入れて進めていきます。住民一人一人が支え合いながら、将来にわたる持続可能な地域を維持するまちづくり、人づくりを行いたいと思っています。</p>	

資料説明	車谷天川村長
<p>天川村長期基本計画を作成し、移住・定住の促進につながる施策を進めています。</p> <p>まず、住宅施策ですが、子育て世帯向けの定住促進住宅を整備しています。空き家は、ワーキンググループで村の方針を議論しながら、空き家バンク事業を実施しています。</p> <p>次に、仕事ですが、観光と農林水産業の六次産業化に取り組んでいます。地域の気候特性を生かした特産品として、洞川夏イチゴの栽培やトラフグの陸上養殖を進めています。</p> <p>また、独立開業の応援事業では、シェアオフィス西友に飲食店スペースを整備し、飲食店開業を本気で目指す方がチャレンジキッチンとして利用できるようにしています。</p> <p>林業の担い手不足を改善するため、林業に関する資格の講習会を行い、その参加者に声をかけ、移住・定住を視野に入れ、林業従事者になってもらえるよう取り組んでいます。</p>	

さらに、観光施策ですが、洞川温泉ビジターセンターの建設を計画しています。これは観光のワンストップサービス施設で、観光案内、現地ツアーの発着などを目指したものです。

最後に、教育は、奈良県初の義務教育学校、天川小中学校を開校しました。9年間の学習指導や生徒指導等を組織的、系統的に取り組み、巣立ちにふさわしい学力や社会性を身につけることを目的にしています。

資料説明	吉井野迫川村長
<p>野迫川村では今後の取組方針として、次の五つを決めています。①快適・安全・安心に暮らせる村づくり②活力と交流に満ちた産業の村づくり③次代を担う人と文化を育む村づくり④子育てしやすく、健康で長生きできる村づくり⑤みんなで力を合わせてつくる村づくり。この中から、二つの主な取組を紹介します。</p> <p>一つ目は、デマンド交通等、村民の生活支援です。高齢者が多いため、乗換えが大変です。また、バスの時間が限られているため、融通が利かないという声があります。そのため、移動手段を確保できるようにデマンド交通や買物ツアーの検討を行っています。</p> <p>二つ目は、移住・定住促進です。移住・定住促進施設「ぶなの森」は、旧北今西小学校をリノベーションし、令和元年6月にオープンしました。「ぶなの森」には、村の生活を体験していただくための部屋を用意しています。野迫川村での暮らしに関心のある方に1週間から1か月程度滞在していただくことが可能です。</p> <p>野迫川村の魅力をより幅広く知っていただくため、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムのSNS情報発信も行っています。多くの方に知ってもらうことで、村に来ていただき、それが移住・定住につながればと思っています。</p>	

意見	小山手十津川村長
<p>全国、世界に誇れる雄大な自然環境と豊富な観光資源など、多大な資源をさらに活用する村づくりを進めています。</p> <p>山の面積の96%が森林で、その約4分の1は放置林です。そのため、森林を適切に管理し、明るく豊かな森林へと山を再び動かし、明るい集落の景観に戻すことが今後の指針です。</p> <p>具体的には、杉や桧の伐採・搬出に対する奨励金の交付や、集落付近の山林・歩道整備の助成をしています。</p> <p>住宅政策では、住宅の確保こそが子育て世帯の誘致や、結果的には産業振興や人口増加につながると考えています。空き家・空き地バンクを運営しておりますが、これら住宅の需要が極めて高く、供給が追いついていません。</p> <p>この状況を改善するため、空き家改修の補助制度を設けました。また、老朽化の激しい空き家には、解体に対する補助制度を設けています。</p> <p>今年度から住宅不足の解消を期待する事業として、賃貸用の集合住宅の建設・整備への補助制度を始めています。</p>	

住宅政策は、林業政策にリンクさせています。村内で切り出した木材を、住宅等の新築や増改築に活用する場合、木材の購入費用に対して、非常に手厚い補助を行っています。

村民の皆さまが主体となって、資源の活力を最大限引き出せるような取組を行いたいと思っています。

意見	荒井奈良県知事
<p>それぞれ共通する課題もありますが、メインテーマが少しずつ違って面白いなと思いました。これらの課題を解決するためには、目標をしっかり定め粘り強く取り組むことが大事です。その目標までの道筋の明確化が行政の役目であり、ビジョンをどう描くかということが重要になります。ビジョンが県や地域と共通するものであれば、協働につながり、そこからスタートしていくように思います。</p> <p>五條市のテーマは農業でした。西吉野農業高校で、実習を兼ねた高校農園をつくって販売までできれば面白いと思いました。学生に、兼業でレストランなどで稼いでもらうことで、地域振興につながればというような発想がわいてきました。</p> <p>黒滝村のテーマは森林でした。森林や林業は、行政が関与して儲もうかるようにすることと、災害に備えて森林を健全に維持管理することが重要です。</p> <p>天川村のテーマは観光でした。洞川温泉にビジターセンターをつくることは大変良い発想です。洞川はすごく優秀な観光地であり、ビジターセンターがあるともっと上手いと思います。</p> <p>野迫川村のテーマは交通機関でした。通院や買い物で五條市まで行くため、村のコミュニティバスを奈良交通の幹線バスにつなぎ、その乗り換え場所を観光拠点、広域バスターミナルにして集客するという発想があります。</p> <p>十津川村のテーマは住宅でした。高齢になると便利なところに集まる方が良いです。住宅地は駅前や医療のある地域にできます。南奈良総合医療センターができたので、病院の近くに集まるか、集まった場所に病院から派遣サービスをするなど、知恵を出していく必要があります。</p> <p>それぞれ切実なテーマを取り上げられているので、共感するところがたくさんありました。ビジョンが共有化できると、県も一緒に取り組んでいけると考えています。</p>	